

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

福岡県 広川町

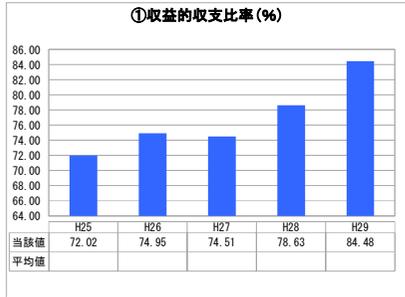
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家賃料(円)
-	該当数値なし	39.27	85.59	3,845

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
19,811	37.94	522.17
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
7,750	2.71	2,859.78

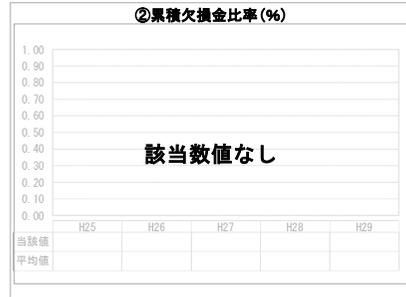
**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成29年度全国平均

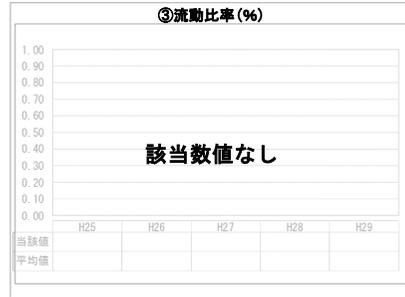
## 1. 経営の健全性・効率性



「単年度の収支」



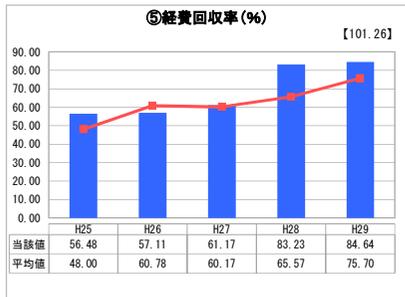
「累積欠損」



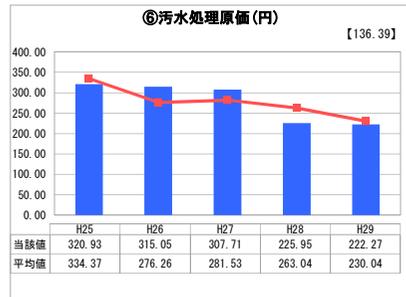
「支払能力」



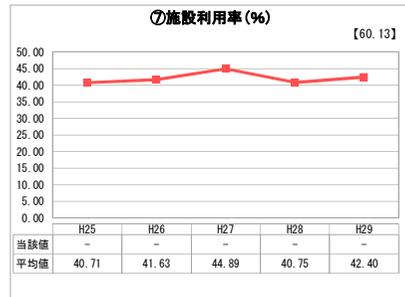
「債務残高」



「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

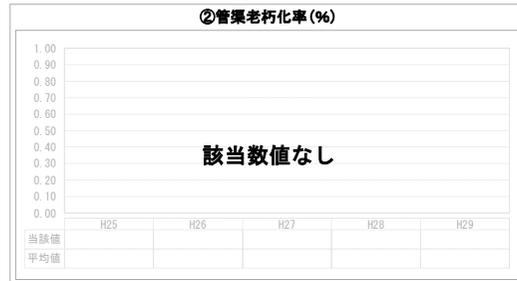


「使用料対象の捕捉」

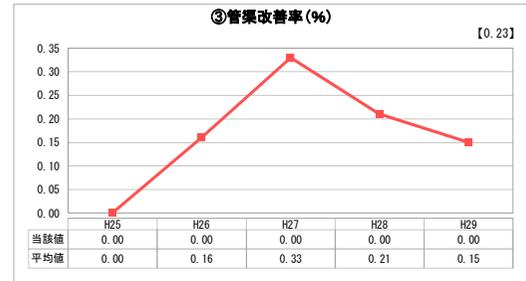
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

当町の下水道事業については、矢部川流域公共下水道に参加しており、関連町公共下水道は現在区域を拡大中です。

供用開始区域の増に伴い、料金収入も増加はしていますが、その収入を上回って維持管理費、処理負担金、起債償還などの経費が増加しています。そのため、国庫補助金、料金収入等の特定財源で不足する部分を一般会計からの繰入金で賄っており、依存度が高い状況にあります。

既供用開始区域内の加入促進を進め、料金収入を増やすことが課題です。

### 2. 老朽化の状況について

現在区域を拡大中で、管渠は古いものでも10数年程度であり、耐用年数を迎えるまでは相当の期間がありますが、今後、ストックマネジメント計画を策定して随時点検、管理していく必要があります。

### 全体総括

長期的な事業運営を安定化するためには、現在拡大している事業計画の効率性・経済性を再検証し、住環境ニーズの変化に合わせた対応が必要になってくると考えます。

既供用開始区域、拡大していく区域内の更なる加入促進を行っていきます。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。